

第4期 札幌文化芸術円卓会議の議題

「市民のニーズに応えるわかりやすい文化芸術情報」について

札幌市では、各種の文化芸術イベントや施設について、①広報さっぽろや公式HPによるPR、②報道機関への情報提供、③イベントや施設ごとのパンフレットの作成・配布、④キックオフイベントやトークイベント等の実施、⑤大通情報ステーションにおける対面案内・パンフレット配架・デジタルサイネージ・HPによる広報…など様々な方法により市民のみなさまに情報提供してきております。

また、行政以外にも、独自に札幌のアートシーンをつなぐような活動も見受けられます。

しかしながら、平成26年度に実施した文化芸術意識調査（市民アンケート）において、「どうすれば札幌市の文化芸術環境に満足できるか。」という問いを設けたところ、最も多く選択された回答は「情報がよりわかりやすく提供される」というものでした。

そこで、市民のみなさまが求める、よりわかりやすい情報提供を行っていくために、札幌市や文化芸術活動を行う団体は、今後どのように文化芸術情報を提供していけばよいのか、そのためには何が必要か、また、逆に市民として、どのような形で情報提供されることを望むのかなどについて、委員のみなさまの自由なご意見を伺いたく、下記にご記入ください。

（手書きによる記入で構いませんが、電子データでもお送りしますので、記載欄の大きさは適宜変更いただいて構いません。また、意見①～⑤まで全て埋める必要もございません。）

自由意見記載欄	
意見	【例】・文化芸術イベント情報を少しずつでもテレビCMで流していくとよい。 ・〇〇のような広報活動を行っているが、△△の部分にももう少し力を入れたい。
理由	【例】・様々な年齢層の市民の目に文化芸術イベントの情報が触れるようになるためには、やはりテレビが一番効果的だと考えるため。 ・自ら〇〇のような活動をしていて、××の部分で手ごたえを感じているが、逆に△△の部分に工夫の余地があると思うので、□□することで強化したい。
意見①	タイムアウトやピーティックスなど既存のアプリを使用した情報発信
理由①	東京を中心にスマホを中心としたガジェットを使用している人たちが、まちで行われているイベントや文化的活動を知るツールとして今後成長して行く可能性を感じているため。 また、札幌へ観光に来た人たちが、来る前からそれらアプリを利用しているなかで、興味のある情報を、地域を換えて情報を得ることができるため。 例) 演劇の情報をフォローしていて、地域を変えると、今までフォローしたり、参加したものを同系統の地域別情報を得ることができる。 タイムアウト> http://www.timeout.jp/tokyo/ja ピーティックス> http://peatix.com/?lang=ja

自由意見記載欄	
意見②	札幌市としてどのメディアを育てていきたいか、を確立させる。
理由②	<p>30代以上の方々はFBでの情報収集や共有が多いと思うが、若者はLINEといわれるなかで、今そしてこれからどのメディアをつかっている人たちに標準を合わせるかの検討をすべきなのではないか。</p> <p>それか、新聞、テレビ、ラジオなどの旧来のメディアと両立することで、情報自体が、様々な場面で手に入れる環境をつくることはあってもいいと思う。</p>
意見③	文化芸術を取り上げる、掘り下げる、深く踏み込むメディアをテレビ会社としっかりと作る。
理由③	<p>情報発信 で終るのではなく、実施している人たちの思考をしっかりと伝えることが重要だと感じる。</p> <p>(文化芸術が世に対してなにを訴えているのか社会情勢の中から掘り下げ、観ている人たち(市民)に考えるきっかけをつくる)</p>

今回札幌市で設定した議題の他に、札幌市の文化行政全般についてご意見がございましたら、以下の記載欄に自由にご記入ください(箇条書など簡潔に記入していただければ結構です。円卓会議2回目の後半(1時間程度)で、各委員からご意見の趣旨について発言していただきます。)

- ・現時点での文化行政のゴールはどう定め、何をゴールとしているのですか？(目標)
- ・若年層へのアプローチを学校教育のなかでもう少し幅を広げて展開してみては？
 - 美術館、キタラでの鑑賞だけでなく
 - 小学校教諭と共に札幌市の文化行政を考える勉強会の実施など
 - 教育に関わる大人が 考える場の創出
- ・北海道、札幌だけのメディアだけでなく、外のメディアとのつながりや、ゴール設定のなかで、“文化”に対して既にはたらきがある方々へのコネクションはどのようにつくっているのですか？
- ・そもそものターゲットは市民全体だとしても、具体的な層を教えてください。

第4期 札幌文化芸術円卓会議の議題

「市民のニーズに応えるわかりやすい文化芸術情報」について

札幌市では、各種の文化芸術イベントや施設について、①広報さっぽろや公式HPによるPR、②報道機関への情報提供、③イベントや施設ごとのパンフレットの作成・配布、④キックオフイベントやトークイベント等の実施、⑤大通情報ステーションにおける対面案内・パンフレット配架・デジタルサイネージ・HPによる広報…など様々な方法により市民のみなさまに情報提供してきております。

また、行政以外にも、独自に札幌のアートシーンをつなぐような活動も見受けられます。

しかしながら、平成26年度に実施した文化芸術意識調査（市民アンケート）において、「どうすれば札幌市の文化芸術環境に満足できるか。」という問いを設けたところ、最も多く選択された回答は「情報がよりわかりやすく提供される」というものでした。

そこで、市民のみなさまが求める、よりわかりやすい情報提供を行っていくために、札幌市や文化芸術活動を行う団体は、今後どのように文化芸術情報を提供していけばよいのか、そのためには何が必要か、また、逆に市民として、どのような形で情報提供されることを望むのかなどについて、委員のみなさまの自由なご意見を伺いたく、下記にご記入ください。

（手書きによる記入で構いませんが、電子データでもお送りしますので、記載欄の大きさは適宜変更いただいて構いません。また、意見①～⑤まで全て埋める必要もございません。）

自由意見記載欄	
意見	【例】・文化芸術イベント情報を少しずつでもテレビCMで流していくとよい。 ・〇〇のような広報活動を行っているが、△△の部分にももう少し力を入れたい。
理由	【例】・様々な年齢層の市民の目に文化芸術イベントの情報が触れるようになるためには、やはりテレビが一番効果的だと考えるため。 ・自ら〇〇のような活動をしていて、××の部分で手ごたえを感じているが、逆に△△の部分に工夫の余地があると思うので、□□することで強化したい。
意見①	TVの例（上記）の他、ラジオも情報に活用していただきたい。
理由①	ラジオは、災害時の重要な情報源となるので、日常からラジオ生活になれる方策も大事かと日ごろから考えている。 また、ながら仕事ができるので（家事やその他）、私は5年程テレビをやめ、ラジオ生活です。天気や交通情報はラジオの定番情報ですが、演奏会チケットの販売目的以外にも芸術情報があると便利
意見②	交通機関（地下鉄・バス・電車）内のポスターや音（アナウンス etc）でも、もっと多く（文化芸術情報を）取り入れてほしい。
理由②	通勤先の岩見沢市は、街中のスピーカーから、地域FM局「はまなす」から、文化芸術情報に限らず（出産からおくやみまで）様々な情報が流れていて便利だと思っています。札幌市内を走るタクシー内に、新聞を常備している会社もあるので、パンフレットの類も置いてもらうのもよいのでは。

自由意見記載欄	
意見③	デパートや大中小型スーパー、電器店、狸小路、学校、病院、施設での PR 催事の実施（ミニ絵画展やミニコンサート）
理由③	誰もが日常の生活の為に必ず訪れる場所が上記です。そこでの地道な PR 催事は、芸術文化を市民が身近に感じる絶好のチャンスになると考えます。 （留学したウィーンのオペラ（歌劇場）近くの保育所に、プロの歌手が来て、乳幼児に本物の音楽（歌）を提供しており驚いた事があります。）
意見④	喫茶店、レストラン等にも、季節ごとにその店にマッチする（客層）情報をテーブルやコーナーに（マッチングさせるコーディネーターも必要）。
理由④	これもヨーロッパ（ドイツ・オーストリア・イタリア）での実践例です。私の通っていた語学学校にも美術界、美術会・音楽会のポスターやパンフレット類が多数あり、休み時間に学生たちは、いつも話題にしていました。
意見⑤	フリーペーパーや有料雑誌（無料誌も）への積極的な進出（広告・割引券の添付）
理由⑤	我が家には、定期的にフリーペーパーが入り、その中には札幌市の文化芸術情報が掲載されており、個人的に便利（私はパソコンをやっておりませんので、他のフリーペーパーもかなり活用）だと思いますが、“もっと一見してわかる図や表もあれば”と思ひ紙面の工夫を希望（市と会社のスタッフによる。）

今回札幌市で設定した議題の他に、札幌市の文化行政全般についてご意見がございましたら、以下の記載欄に自由にご記入ください（箇条書など簡潔に記入していただければ結構です。円卓会議2回目の後半（1時間程度）で、各委員からご意見の趣旨について発言していただきます。）。

- ・文化芸術のモニターやサポーターを作っていただきたいです。当初は少人数で、将来的には学校、会社、団体ごとの大勢になって、5年後、10年後に草の根の活動（イベント…プロではなくあくまで市民による企画、立案、実施。プロのアドバイスはあってもよい。）が日本中（先ずは全道から）や世界に知られれば（認知されれば）、たのしく素晴らしいと！街も市民生活も活性化すると考えます。
（その実践のために、施設を低料金、時には無料として提供する。企業や行政の協力も大切）

第4期 札幌文化芸術円卓会議の議題

「市民のニーズに応えるわかりやすい文化芸術情報」について

札幌市では、各種の文化芸術イベントや施設について、①広報さっぽろや公式HPによるPR、②報道機関への情報提供、③イベントや施設ごとのパンフレットの作成・配布、④キックオフイベントやトークイベント等の実施、⑤大通情報ステーションにおける対面案内・パンフレット配架・デジタルサイネージ・HPによる広報…など様々な方法により市民のみなさまに情報提供してきております。

また、行政以外にも、独自に札幌のアートシーンをつなぐような活動も見受けられます。

しかしながら、平成26年度に実施した文化芸術意識調査（市民アンケート）において、「どうすれば札幌市の文化芸術環境に満足できるか。」という問いを設けたところ、最も多く選択された回答は「情報がよりわかりやすく提供される」というものでした。

そこで、市民のみなさまが求める、よりわかりやすい情報提供を行っていくために、札幌市や文化芸術活動を行う団体は、今後どのように文化芸術情報を提供していけばよいのか、そのためには何が必要か、また、逆に市民として、どのような形で情報提供されることを望むのかなどについて、委員のみなさまの自由なご意見を伺いたく、下記にご記入ください。

（手書きによる記入で構いませんが、電子データでもお送りしますので、記載欄の大きさは適宜変更いただいて構いません。また、意見①～⑤まで全て埋める必要もございません。）

自由意見記載欄	
意見	【例】・文化芸術イベント情報を少しずつでもテレビCMで流していくとよい。 ・〇〇のような広報活動を行っているが、△△の部分にももう少し力を入れたい。
理由	【例】・様々な年齢層の市民の目に文化芸術イベントの情報が触れるようになるためには、やはりテレビが一番効果的だと考えるため。 ・自ら〇〇のような活動をしていて、××の部分で手ごたえを感じているが、逆に△△の部分に工夫の余地があると思うので、□□することで強化したい。
意見①	紙媒体（広報さっぽろ等）等、受動的メディアの情報数の拡充、大通情報ステーションWEB等、能動的メディアの1案件ごとの情報量拡充。
理由①	広報さっぽろの配布数などは目をみはるものがあるが掲載できる件数や条件などが限られているため、情報数が圧倒的に少ない。簡易でも良いので掲載できる数を増やしたほうが良いのではないかと。このような偶然情報を得られるメディアに関しては他にも同様に掲載数を確保して情報入口を作っておきたい。sapporo north2、市役所1Fサイネージ、各種札幌市SNSなどでも配信されていないのは勿体無い。 入口を上記のような形で作っても中身がスカスカであればPRとしては圧倒的に弱い。終着点として利用できるのは各種イベント公式サイトや大通情報ステーションのWEBであるが、大通情報ステーションに掲載されてる情報の質が非常に低い。この質は高めるべきだし、WEBの特性を活かした文字情報の拡充、多言語対応や終了した文化情報のアーカイブ化なども行うと良いのではないかと。

自由意見記載欄	
意見②	道外への PR 強化
理由②	<p>情報の価値として札幌ローカルのマスメディアで取り上げられているものよりも、東京や全国ネット、海外等で取り上げられているもののほうに価値を見出す方が多く見受けられる。マスだけでなくウェブサイトにおいても大手情報サイトに取り上げられていることが重要な情報ステータスだと感じる。リリース文は行政用語ではなく各種媒体に合わせた魅力的なものとしてリリースが行われているのか。主とする情報のみをリリースせず周辺の付随情報等は合わせてリリースしているのか。これらについて文化行政だけでなく行政が行う全般において一体化して考えられる組織が整えられているのでしょうか。それとも各担当部署ごとに行われているのでしょうか。</p> <p>リリースはウェブ・紙媒体・マス全般に行われているのか、使用される可能性のあるデータ等の受渡しがスムーズに行えるシステムが整っているのか等など色々きになるところです。</p> <p>また、ニュースリリース等が行われていることかと思うが、拡散力のある道外および海外施設等のリサーチ、およびパンフレット配架等はどれほど行われているのでしょうか。</p>
意見③	イベント主催者サイドによる情報の拡充
理由③	<p>市内で日常的に行われているイベント等では、すでに情報を持っている人たち（出演者等を知ってる等）への PR は多く行われているが初見の人に対しての PR として考えると情報量が圧倒的に不足している。バンド系音楽イベントなどであればタイトルと出演者くらいしか情報がないものも多い。それがいかに見るべきイベントなのか等の謳い文句が一切欠如しては誰の心にも響かないどころか、取り上げてくれる媒体等も存在せず、結局人に届かない。それぞれの主催者が意識することはもちろんだが、札幌市側が恒常的に情報ステーションへの情報提供を呼びかける、その際に最低限必要な情報の種類を提示することによって感化していくことはできるのではないか。</p>
意見④	イベントスペース担当者からの発信強化
理由④	<p>意見3とも似ているのですが、イベント主催者はもちろん、イベントをするスペース側の発信が圧倒的に弱く感じます。主催者（アーティスト等）側はそこまで手がまわらないことも多く、その際に PR をしていくべきスペース側がほぼ PR 機能を有しておらず、結果として情報が行き渡らない場合が多く感じます。もともと箱貸しを軸としていた事業なので PR 業務などは行っていなかったのかもしれませんが、そういったことは今後のスペース運営にも重要なことであると考えます。こういったことも何らかの形で啓蒙していくことができれば地の発信力が上がっていくのではないのでしょうか。ニュースリリースの書き方、出し方やパンフレットの配架先の情報などを提供出来る形で行政が持っていればいいのかもかもしれません。（これはアートセンターが担うことができるのかも）</p>

【カジタ委員】

今回札幌市で設定した議題の他に、札幌市の文化行政全般についてご意見がございましたら、以下の記載欄に自由にご記入ください（箇条書など簡潔に記入していただければ結構です。円卓会議2回目の後半（1時間程度）で、各委員からご意見の趣旨について発言していただきます。）。

- ・ 各イベントの担当部署ごとの連携がどれくらい取れているのか

第4期 札幌文化芸術円卓会議の議題

「市民のニーズに応えるわかりやすい文化芸術情報」について

札幌市では、各種の文化芸術イベントや施設について、①広報さっぽろや公式HPによるPR、②報道機関への情報提供、③イベントや施設ごとのパンフレットの作成・配布、④キックオフイベントやトークイベント等の実施、⑤大通情報ステーションにおける対面案内・パンフレット配架・デジタルサイネージ・HPによる広報…など様々な方法により市民のみなさまに情報提供してきております。

また、行政以外にも、独自に札幌のアートシーンをつなぐような活動も見受けられます。

しかしながら、平成26年度に実施した文化芸術意識調査（市民アンケート）において、「どうすれば札幌市の文化芸術環境に満足できるか。」という問いを設けたところ、最も多く選択された回答は「情報がよりわかりやすく提供される」というものでした。

そこで、市民のみなさまが求める、よりわかりやすい情報提供を行っていくために、札幌市や文化芸術活動を行う団体は、今後どのように文化芸術情報を提供していけばよいのか、そのためには何が必要か、また、逆に市民として、どのような形で情報提供されることを望むのかなどについて、委員のみなさまの自由なご意見を伺いたく、下記にご記入ください。

（手書きによる記入で構いませんが、電子データでもお送りしますので、記載欄の大きさは適宜変更いただいて構いません。また、意見①～⑤まで全て埋める必要もございません。）

自由意見記載欄	
意見	【例】・文化芸術イベント情報を少しずつでもテレビCMで流していくとよい。 ・〇〇のような広報活動を行っているが、△△の部分にもう少し力を入れたい。
理由	【例】・様々な年齢層の市民の目に文化芸術イベントの情報が触れるようになるためには、やはりテレビが一番効果的だと考えるため。 ・自ら〇〇のような活動をしていて、××の部分で手ごたえを感じているが、逆に△△の部分に工夫の余地があると思うので、□□することで強化したい。
意見①	札幌市が収集している文化芸術イベント情報の情報を集積し公開すること
理由①	これからあるイベントの紹介も大事ですが、過去に行われたものの集積はもっと大事かなと思います。集める方法と、集めたものをどうやって公開しておくかの方法を考えると良いかなと思います。
意見②	札幌市ホームページの施設等紹介の更新を進めること
理由②	現在は、掲載希望を受けて、掲載するのみです。更新がありません。 更新がないため、閉まっている施設、営業していない施設も掲載されています。 これでは、みんな見ないと思います。

自由意見記載欄	
意見③	批評家集団を育てるプロジェクトの立ち上げ
理由③	私たちは、いいイベントを見たいものだから、良し悪しを判断する批評する立場の人がいなくては、選びようがありません。 多種多様な批評があって初めて芸術は、芸術たる価値を高めていくと思います。

今回札幌市で設定した議題の他に、札幌市の文化行政全般についてご意見がございましたら、以下の記載欄に自由にご記入ください（箇条書など簡潔に記入していただければ結構です。円卓会議2回目の後半（1時間程度）で、各委員からご意見の趣旨について発言していただきます。）。

札幌市市民交流複合施設内に設置されるアートセンター計画の進行状況につき、公開をされたい。

建物は今年に完成するようで、建物の概要については紹介がされているが、実際の運営がどのようなようになっていくのか。芸術監督の選定状況なども含め、公開されたい。

第4期 札幌文化芸術円卓会議の議題

「市民のニーズに応えるわかりやすい文化芸術情報」について

札幌市では、各種の文化芸術イベントや施設について、①広報さっぽろや公式HPによるPR、②報道機関への情報提供、③イベントや施設ごとのパンフレットの作成・配布、④キックオフイベントやトークイベント等の実施、⑤大通情報ステーションにおける対面案内・パンフレット配架・デジタルサイネージ・HPによる広報…など様々な方法により市民のみなさまに情報提供してきております。

また、行政以外にも、独自に札幌のアートシーンをつなぐような活動も見受けられます。

しかしながら、平成26年度に実施した文化芸術意識調査（市民アンケート）において、「どうすれば札幌市の文化芸術環境に満足できるか。」という問いを設けたところ、最も多く選択された回答は「情報がよりわかりやすく提供される」というものでした。

そこで、市民のみなさまが求める、よりわかりやすい情報提供を行っていくために、札幌市や文化芸術活動を行う団体は、今後どのように文化芸術情報を提供していけばよいのか、そのためには何が必要か、また、逆に市民として、どのような形で情報提供されることを望むのかなどについて、委員のみなさまの自由なご意見を伺いたく、下記にご記入ください。

（手書きによる記入で構いませんが、電子データでもお送りしますので、記載欄の大きさは適宜変更いただいて構いません。また、意見①～⑤まで全て埋める必要もございません。）

自由意見記載欄	
意見	【例】・文化芸術イベント情報を少しずつでもテレビCMで流していくとよい。 ・〇〇のような広報活動を行っているが、△△の部分にももう少し力を入れたい。
理由	【例】・様々な年齢層の市民の目に文化芸術イベントの情報が触れるようになるためには、やはりテレビが一番効果的だと考えるため。 ・自ら〇〇のような活動をしていて、××の部分で手ごたえを感じているが、逆に△△の部分に工夫の余地があると思うので、□□することで強化したい。
意見①	40代以下～若年層にはSNSなどのネットでの地道な拡散方法、中高年にはテレビCMと広報さっぽろのデザイン変更
理由①	年代関係なくより多くの市民に「我が事」感を持ってもらう事が重要なのではないかと思います。北海道、とりわけ札幌市民の皆さんは郷土愛が強いように感じます。大好きな札幌市が行っている行事へ自身に関わるとなると、応援し、自ら情報を得て、そして自慢したくなるのではないのでしょうか。 その自慢のツールがSNSになると思います。そして拡散してもらうことにより自然に知ってもらう機会も増えるのではないのでしょうか。若年層には動画コンテンツなどの配信（ニコ動、6秒動画vineなど）を活用すると身近に感じてもらえるのではないのでしょうか。中高年以上にはテレビCMは効果的だと思います。広報さっぽろもよく読む世代だと思います。ただ、どちらもわかりやすくないと印象には残らないのではと思います。そうする事により全世代にもわかりやすく浸透していくのではないかと思います。

	自由意見記載欄
	<p>そして「我が事」感をどのように作っていくかが問題となる訳ですが、例えば「札幌イベント盛り上げ隊」のようなボランティアスタッフを募集して「SNSで拡散してください」といったようなある程度誰でもできるような願いをし、お礼に「スペシャルサッポロスマイルマーク」(応援隊専用のものを特別に作る)などプレゼントするとかはいかがでしょうか。</p> <p>各イベント毎に応援隊を募集したりするのも良いかもしれません。市民の根っこにある“札幌が大好き”という気持ちをくすぐる市民参加型周知活動になるのではないかと思います。</p>

今回札幌市で設定した議題の他に、札幌市の文化行政全般についてご意見がございましたら、以下の記載欄に自由にご記入ください（箇条書など簡潔に記入していただければ結構です。円卓会議2回目の後半（1時間程度）で、各委員からご意見の趣旨について発言していただきます。）。

--

第4期 札幌文化芸術円卓会議の議題

「市民のニーズに応えるわかりやすい文化芸術情報」について

札幌市では、各種の文化芸術イベントや施設について、①広報さっぽろや公式HPによるPR、②報道機関への情報提供、③イベントや施設ごとのパンフレットの作成・配布、④キックオフイベントやトークイベント等の実施、⑤大通情報ステーションにおける対面案内・パンフレット配架・デジタルサイネージ・HPによる広報…など様々な方法により市民のみなさまに情報提供してきております。

また、行政以外にも、独自に札幌のアートシーンをつなぐような活動も見受けられます。

しかしながら、平成26年度に実施した文化芸術意識調査（市民アンケート）において、「どうすれば札幌市の文化芸術環境に満足できるか。」という問いを設けたところ、最も多く選択された回答は「情報がよりわかりやすく提供される」というものでした。

そこで、市民のみなさまが求める、よりわかりやすい情報提供を行っていくために、札幌市や文化芸術活動を行う団体は、今後どのように文化芸術情報を提供していけばよいのか、そのためには何が必要か、また、逆に市民として、どのような形で情報提供されることを望むのかなどについて、委員のみなさまの自由なご意見を伺いたく、下記にご記入ください。

（手書きによる記入で構いませんが、電子データでもお送りしますので、記載欄の大きさは適宜変更いただいて構いません。また、意見①～⑤まで全て埋める必要もございません。）

自由意見記載欄	
意見	<p>【例】・文化芸術イベント情報を少しずつでもテレビCMで流していくとよい。 ・〇〇のような広報活動を行っているが、△△の部分にももう少し力を入れたい。</p>
理由	<p>【例】・様々な年齢層の市民の目に文化芸術イベントの情報が触れるようになるためには、やはりテレビが一番効果的だと考えるため。 ・自ら〇〇のような活動をしていて、××の部分で手ごたえを感じているが、逆に△△の部分に工夫の余地があると思うので、□□することで強化したい。</p>
意見①	<p>「情報がよりわかりやすく提供される」ためにはどのような取り組みが必要かと考えると、一つは情報の整理にあると思う。例えば情報誌やWEBなどで一つのページにクラシックもあれば演劇もあり、という雑多な紹介の仕方ではなく、クラシックページ、演劇ページというように分けた方が観覧者は必要な情報を得やすくなる。</p>
理由①	<p>現代は情報化社会というだけあり、情報があまりにも多いために自分が欲しい情報が得にくくなっている。そこに動線を引いてあげることで「情報がよりわかりやすく提供される」ことに繋がると思う。また、現代の特長としてスモールコミュニティ、つまりダンスを観る人はダンスだけ、演劇を観る人は演劇だけという傾向がある。それであれば紹介ページの専門性を高め、まずはそれぞれが好きなジャンルをとことん楽しんでもらえるようにすれば良いのではないだろうか。それぞれが文化人として成熟していけば、自然と他のジャンルのアートにも興味を持つようになり、そういう文化人が増えていけば都市としてもますます創造的になっていくはずである。</p>

自由意見記載欄	
意見②	<p>大通情報ステーションの WEB サイトに注目した場合、カテゴリ分けこそされているものの、基本的にはイベント詳細の羅列だけになっており専門性は高くない。各ジャンルの TOP ページを設け、サブカテゴリを充実させてはどうか。</p> <p>例えば「舞台芸術の TOP ページ」「スポーツの TOP ページ」「美術の TOP ページ」があり、初心者向けイベントの紹介や解説などを設けて情報にメリハリをつける。</p> <p>各ジャンルにコンシェルジュのような人を設け、独自に情報を整理させるとなお良くなると思う。</p>
理由②	<p>意見①の繰り返しになるが、人々は専門性を求める傾向が高まっているように感じる。「あれもこれも紹介」ではなく、「求めている情報を提供する」ことが重要。また、それぞれのジャンルで顧客化のサイクルを作れるとさらに理想的。</p> <p>例えば演劇初心者にいきなり哲学的な作品や、アングラ作品を見せても拒否反応が起きやすいので、最初は多くの人が楽しんでもらえる作品を初心者向けに紹介する。その一方で少々難解でもレベルの高い作品をきちんと紹介・解説する。日本は残念ながら文化的に成熟している国ではないので、そうやってコンシェルジュが動線を引きながらマーケットを育てていく必要がある。</p> <p>大通情報ステーションの WEB サイトに関して、さらに細かく言うと現在の TOP ページは観光色が前面にすぎている。観光客には良いのかもしれないが、札幌市民からすると普段づかいしたくなるかどうか。</p> <p>例えば TOP ページの写真もスポーツ、舞台芸術、美術の写真などを入れていった方が幅の広がりが良いと思う。現在は検索→紹介だけの仕組みなので、血が通っていない無機質なサイトに見える。「専門家による紹介・解説」「口コミ紹介」「市民同士のコミュニケーション」などコンテンツが増えていくと利用者は爆発的に増えると考える。</p> <p>札幌市アーティストバンクなども面白いコンテンツだと思うが、情報が偏っているのでこちらもコンシェルジュが整理して、各サイトをうまく連動させていけば内容は格段に面白くなるのではないかと。定期的にチェックしたくなるサイトになれば、札幌の文化レベルを一気に引き上げられる大きな存在になるはずである。</p>
意見③	<p>広報さっぽろに有料でイベント情報を掲載できるようにする。</p>
理由③	<p>広報さっぽろに掲載されている情報は一部の施設の情報だけで偏りがあるため、他の施設で開催されている情報も掲載できると良い。イベントのクオリティはある程度考慮する必要があるため審査制、なおかつ有料での掲載が望ましいと考える。</p> <p>なぜ有料が望ましいかというと、無料にすると申込みが多くなりすぎる。掲載情報が多くなるとページ数も多くなってしまい、市民からしても情報が多すぎると見ていて疲れてしまうし、印刷のコストも上がる。</p> <p>ある程度の規模で開催しているイベントは、多少の広告料は問題ないはず。</p>
意見④	<p>前述した内容と重なるが、各ジャンルのコンシェルジュをたてる。(2年交代など)</p>
理由④	<p>広報面の他にも様々な面で、それぞれの情報を(それなりに)正しく判断できる専門家が重要だと思う。そういう方が行政と市民の間にたち、架け橋となれば様々な面が劇的に改善されるのではないだろうか。コンシェルジュ同士がジャンルを超えて意見を出し合ったりする場を設けても面白い。</p>

自由意見記載欄	
意見⑤	多言語での情報の発信
理由⑤	<p>将来的に国際的な創造都市を目指すのであれば、多言語化は避けて通れない。ダンスやスポーツ、音楽などは言葉の壁をこえて誰もが楽しめるものなので、情報をきちんと伝えることができれば、観光客の来場は増えていくはず。</p> <p>私が台湾に訪れた際はアートの情報紹介が中国語、英語の両方で記載されていたので現地のアートに触れやすく、有意義な時間を過ごせた。</p>

今回札幌市で設定した議題の他に、札幌市の文化行政全般についてご意見がございましたら、以下の記載欄に自由にご記入ください（箇条書など簡潔に記入していただければ結構です。円卓会議2回目の後半（1時間程度）で、各委員からご意見の趣旨について発言していただきます。）。

行政と市民が一体となり大きな力を生む為には、どちらか一方だけが前にでないよう「バランス」が大事だと考える。

例えば札幌国際芸術祭は札幌市が主催で、準備がとても大変だったと聞いているが、もう少し市内の専門家に様々な仕事を振り分けられれば良かったのかとも思う。

もちろん関係者が増えすぎると意思の疎通は難しくなるが、組織化がきちんとできればそれほど大きな問題にはならないのではないかと。

外から見ていると札幌市が前面に立って頑張りすぎているように感じたので、市が自らの主催事業に力を入れるよりかは、市民の優れている活動を積極的に支援するアシストに力を入れる方がスマートだと感じる。

そのアシストの一つが今回のテーマである「広報のインフラ整備」ではないだろうか。行政が市民のイベントを交通整理し、広報面からサポートしてくれるとこれは非常に心強いし、札幌市の事がもっともっと好きになる。

世界的に見ても、劇的な発展を遂げている地域（またはイベント）は行政・教育機関・市民団体の力が一つになっている。

札幌市は施設も多く、市民も活発であるように感じる。ただ、各自のプロジェクトが点で終わっており、それを線にして、円に変えるにはそういう役割の人間がもっともっと必要であると考えます。

第4期 札幌文化芸術円卓会議の議題

「市民のニーズに応えるわかりやすい文化芸術情報」について

札幌市では、各種の文化芸術イベントや施設について、①広報さっぽろや公式HPによるPR、②報道機関への情報提供、③イベントや施設ごとのパンフレットの作成・配布、④キックオフイベントやトークイベント等の実施、⑤大通情報ステーションにおける対面案内・パンフレット配架・デジタルサイネージ・HPによる広報…など様々な方法により市民のみなさまに情報提供してきております。

また、行政以外にも、独自に札幌のアートシーンをつなぐような活動も見受けられます。

しかしながら、平成26年度に実施した文化芸術意識調査（市民アンケート）において、「どうすれば札幌市の文化芸術環境に満足できるか。」という問いを設けたところ、最も多く選択された回答は「情報がよりわかりやすく提供される」というものでした。

そこで、市民のみなさまが求める、よりわかりやすい情報提供を行っていくために、札幌市や文化芸術活動を行う団体は、今後どのように文化芸術情報を提供していけばよいのか、そのためには何が必要か、また、逆に市民として、どのような形で情報提供されることを望むのかなどについて、委員のみなさまの自由なご意見を伺いたく、下記にご記入ください。

（手書きによる記入で構いませんが、電子データでもお送りしますので、記載欄の大きさは適宜変更いただいて構いません。また、意見①～⑤まで全て埋める必要もございません。）

自由意見記載欄	
意見	【例】・文化芸術イベント情報を少しずつでもテレビCMで流していくとよい。 ・〇〇のような広報活動を行っているが、△△の部分にももう少し力を入れたい。
理由	【例】・様々な年齢層の市民の目に文化芸術イベントの情報が触れるようになるためには、やはりテレビが一番効果的だと考えるため。 ・自ら〇〇のような活動をしていて、××の部分で手ごたえを感じているが、逆に△△の部分に工夫の余地があると思うので、□□することで強化したい。
意見①	ウェブサイトが充実していない文化芸術施設のための、「大通情報ステーション」ウェブサイトの発展的活用
理由①	札幌市とその近郊でのイベント情報提供で、2015年特に目立った例として「大通情報ステーション」の強化が挙げられる。場所が便利になり、隔週のイベントガイドは総覧性に優れ、その情報源である同ステーションのウェブサイトも検索しやすく、一方で、各イベントの関係者による登録も容易であり、多くの情報を掲載できる。 しかし、中小のホールや演劇関係などの文化芸術施設の中には、ウェブサイトのコンテンツを充実させたり、随時更新する体制がとれない所も少なくない。こうした文化芸術施設への一つの支援方法として、「大通情報ステーション」のウェブサイト環境を活用して、各施設専用のページを提供できないだろうか。各施設には、専用ページへのアクセス権限を与え、安価な利用料で運用を可能にするのである。 各施設専用のページで入力されたコンテンツに対して、「大通情報ステーション」ウェブサイトでの検索対象にするかどうかを選択できる機能を付けると、「大通情報ステーション」への登録負荷が減るというメリットもある。

自由意見記載欄	
意見②	道、市、区の施設や、民間の文化・芸術施設に置かれている紙媒体（チラシ）のネット上への掲載
理由②	<p>意見①の「ウェブサイトが充実していない文化芸術施設」を含めて、北海道や札幌市、各区の施設や民間の文化・芸術施設には、非常に多様な紙媒体（チラシ）が置かれている。単発のイベントだけではなく、定期的に発行されるニューズレターの類も少なくない。こうした情報の多くは各施設に出向かないと入手が難しく、どうしても情報が限定されてしまう。</p> <p>しかし、こうした紙媒体をイメージスキャンでファイルにしたり、元々PDFファイルが存在する場合、こうしたファイルをウェブサイトにアップロードすることで、役に立つ情報が地理的制約から解放される。ファイルの登録時に幾つかのキーワードを付けておけば、ウェブ上での検索がさらに容易になる。</p> <p>そのための条件は、スキャナーやパソコンなどの設備費と、スキャンやアップロード、登録のための人件費である。仮に、こうした施設に対しての補助制度ができれば、確実に情報の共有は進むはずである。大きな予算を組むのが難しければ、区民センターで職員によるパイロット的な運用を始めてみてはどうだろう。市・区の広報で運用開始について知らせ、区民へのアンケートによって評価を行うのである。</p> <p>NPO 法人などが各施設にチラシを定期的に配布している場合、その元データ（PDFファイルなど）をアップロードするように働きかけるのも効果がある。意見①の「施設専用ページ」へアップロードすると、同時に、各施設とは独立した「紙媒体（チラシ）共有ページ」にもリンクが張られ、利用者はこの共有ページで容易に検索できるようになる。</p>

【吉田委員】

今回札幌市で設定した議題の他に、札幌市の文化行政全般についてご意見がございましたら、以下の記載欄に自由にご記入ください（箇条書など簡潔に記入していただければ結構です。円卓会議2回目の後半（1時間程度）で、各委員からご意見の趣旨について発言していただきます。）。

1. 「さっぽろアートステージ 2015」（11/7～12/6）において、チカホの数カ所に美術作品の展示があったが、予算上の制約か準備期間の短さのためか、貧弱な展示が多かったように思う。
たとえ展示が簡素であっても、見る者が何がしかのインスピレーションを受けるようなものを望むが、少なくとも今回に限っては、情けなさを覚える展示が目立った。
展示内容について、適切な人物による事前の審査が行われているのかどうかを知りたい。不適切な場合はもちろん、レベルが一定水準に達していない場合は、展示をお断りした方がよい。
もちろん、大学の美術学部や美術専門学校生による展示の場合は、その旨、展示場に目立つように断り書きをしておけば構わないと思う。
2. 複合文化芸術施設である公益財団法人「アクロス福岡」は開業 20 年になるが、利用対象を福岡近辺に限定していない。先日、旅行会社から届いた海外演奏会鑑賞ツアーのDMに、アクロス福岡の月刊パンフレットが同封されていた。
全国の音楽ファンに、福岡での公演情報を広報し、興味を持って頂こうという試みであり、いわゆる「文化・芸術ツーリズム」の一環と言える。札幌は福岡以上の観光都市であり、ギターやPMFは、もっとこの点の広報活動を強化して欲しい。
平成 30 年秋にオープンする市民交流複合施設ではオペラの公演も行われる予定なので、全国主要都市のオペラ劇場との共同製作が増えていくはずである。ギターやふきのとうなど、一流ホールでのコンサートやリサイタルと組み合わせて、飛行機代やホテル宿泊料金を割り引くようなシステムはできないだろうか（PMF やサッポロシティジャズの期間は言うまでもない）。
従来型の、単発の音楽鑑賞パッケージツアーでは、多様化した音楽愛好家の需要を十分に取り込むことは限られる。航空業界や宿泊業界へのインセンティブにもなるような柔軟なシステムを設計して、国内はもちろん、アジア圏の音楽ファンに対しても、北海道の自然と食に加えて、本格的な音楽を楽しむ相乗効果をアピールしたい。
3. 過去 10 年間、毎年5月のゴールデンウィーク期間に都内で行われている「熱狂の日」（ル・フォル・ジュルネ）は、クラシック音楽の大衆化に大きな貢献をなし、毎回平均で 15 万枚のチケットが売れるイベントになっている。
現在では、東京に限らず、同時期に金沢やびわ湖、新潟でも行われており、海外からのアーティストが、滞在期間に各地を回って演奏を行うシステムになっている。札幌は地理的にやや遠いものの、演奏会場やホテルなどの受け入れ環境はまったく問題ない。
「熱狂の日」は、PMF とはまったく異なり、一時間前後一流の公演を、1500 円から 2500 円の料金でつまみ食いするように楽しめる企画であり、無料の公演やイベントも含め、家族連れも含めた、一般向けのお祭りとなっている。
札幌は、これまでに「熱狂の日」に関心を持ち、誘致のための働きかけを行ってきたのだろうか。項2の「文化・芸術ツーリズム」にも関わることであり、是非検討して頂きたい。